

■ 建築ライセンス科 教科目〔科目担当者〕一覧

設計実務経験者授業	777.5 時間	910.0 時間
施工実務経験者授業	132.5 時間	
授業総時間	910 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
2級建築士・計画	1	必修	小牧 友久	○		82.5
2級建築士・法規	1	必修	遠藤 忠俊	○		82.5
2級建築士・構造	1	必修	鈴木 樹	○		82.5
2級建築士・施工	1	必修	伊丹 勤		○	82.5
2級建築士・製図	1	必修	遠藤 忠俊	○		330
総合演習（設計）	1	選必	遠藤 忠俊	○		50
総合演習（CAD）	1	必修	小牧 友久	○		25
総合演習（構造計算）	1	選必	小牧 友久	○		50
総合演習（施工図）	1	選必	伊丹 勤		○	50
総合演習（積算）	1	必修	鈴木 樹	○		25
総合演習（各種申請）	1	必修	遠藤 忠俊	○		50
総合演習（測量実験）	1	選必	伊丹 勤		○	50
1級建築士・製図	1	必修	河崎 真樹子	○		50

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・計画		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	小牧 友久	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科I」分野の学習を行う。環境工学、建築計画、建築設備の3分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各单元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	日本建築史、西洋建築史、近代・現代建築史		
4 ～ 7 時間目	環境工学の用語・単位と環境問題		
8 ～ 11 時間目	空気汚染		
12 ～ 15 時間目	音湿度		
16 ～ 19 時間目	換気・通風		
20 ～ 23 時間目	伝熱、結露		
24 ～ 27 時間目	日照・日射・日影・採光		
28 ～ 31 時間目	音響・吸音・遮音・残響		
32 ～ 35 時間目	光・色彩		
36 ～ 39 時間目	専用住宅		
40 ～ 43 時間目	集合住宅・住宅地の計画		
44 ～ 47 時間目	商業建築・事務所建築		
48 ～ 51 時間目	公共建築		
52 ～ 55 時間目	各部計画、住宅生産		
56 ～ 59 時間目	設備用語、空調設備		
60 ～ 63 時間目	冷暖房設備		
64 ～ 67 時間目	給水設備・排水設備		
68 ～ 71 時間目	電気設備、照明設備		
72 ～ 75 時間目	防災・消防設備		
76 ～ 79 時間目	省エネルギー設備		
80 ～ 82.5 時間目	搬送・ガス設備		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050101

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・法規		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	遠藤 忠俊	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅱ」分野の学習を行う。 過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各单元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	用語の定義		
4 ～ 7 時間目	面積・高さ等の算定方法		
8 ～ 11 時間目	建築基準法の手続き等		
12 ～ 15 時間目	換気・採光・シックハウス対策		
16 ～ 19 時間目	一般構造		
20 ～ 23 時間目	防火規制		
24 ～ 27 時間目	内装制限		
28 ～ 31 時間目	避難施設		
32 ～ 35 時間目	構造計算		
36 ～ 39 時間目	鉄筋コンクリート造		
40 ～ 43 時間目	木造・その他の構造		
44 ～ 47 時間目	道路		
48 ～ 51 時間目	用途地域		
52 ～ 55 時間目	容積率		
56 ～ 59 時間目	建蔽率		
60 ～ 63 時間目	高さ制限		
64 ～ 67 時間目	防火地域・準防火地域		
68 ～ 71 時間目	建築士法		
72 ～ 75 時間目	建設業法・宅地建物取引業法		
76 ～ 79 時間目	バリアフリー法・耐震改修促進法		
80 ～ 82.5 時間目	都市計画法・消防法		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050102

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・構造		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅲ」分野の学習を行う。構造力学・構造計画・一般構造・構造材料の4分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	用語と単位・断面の性質		
4 ～ 7 時間目	応力度・許容応力度		
8 ～ 11 時間目	力のモーメント・釣合・合成と分解		
12 ～ 15 時間目	反力		
16 ～ 19 時間目	静定梁		
20 ～ 23 時間目	静定ラーメン		
24 ～ 27 時間目	静定トラスの応力(節点法)		
28 ～ 31 時間目	静定トラスの応力(切断法)		
32 ～ 35 時間目	座屈(座屈長さ・座屈荷重)		
36 ～ 39 時間目	荷重及び外力		
40 ～ 43 時間目	地盤及び基礎		
44 ～ 47 時間目	木構造		
48 ～ 51 時間目	補強コンクリートブロック造・壁式鉄筋コンクリート造		
52 ～ 55 時間目	鉄筋コンクリート構造		
56 ～ 59 時間目	鉄骨構造		
60 ～ 63 時間目	構造計画		
64 ～ 67 時間目	構造材料(木材)		
68 ～ 71 時間目	構造材料(コンクリート材料強度・調合)		
72 ～ 75 時間目	構造材料(鋼材・金属材料)		
76 ～ 79 時間目	その他の各種材料		
80 ～ 82.5 時間目	建築材料(用途・全般)		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050103

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・施工		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科		③ 履修学年 1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数 82.5	⑥ 授業形態 講義
⑦ 担当教員(代表)	伊丹 勤	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅳ」分野の学習を行う。施工管理、各種工事、積算、測量について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各单元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 6 時間目	施工計画、工程管理、		
7 ～ 12 時間目	安全管理、品質管理		
13 ～ 18 時間目	土工事		
19 ～ 24 時間目	仮設工事		
25 ～ 30 時間目	型枠工事		
31 ～ 36 時間目	鉄筋工事		
39 ～ 42 時間目	コンクリート工事		
43 ～ 48 時間目	鉄骨工事		
49 ～ 53 時間目	木工事		
54 ～ 58 時間目	補強コンクリートブロック工事		
59 ～ 64 時間目	防水工事、左官工事		
65 ～ 70 時間目	タイル工事、塗装工事		
71 ～ 76 時間目	内装工事、施工機械・器具		
77 ～ 82.5 時間目	測量、積算		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他		教科書	スタンダード二級建築士 出版社：学芸出版社 著者：建築資格試験研究会
		教材	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050104

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・製図		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	330
⑦ 担当教員(代表)	遠藤 忠俊	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
2級建築士設計製図課題に対する、計画手法を学びまた、作図技術を向上させ、実技試験合格を目差す。 建築物を設計することで、建築士の責任意識を高め社会から歓迎される人柄を養い、即戦力として活躍出来る人材に育てる。			
⑪ 授業の概要			
製図の実習形式で、計画から作図の演習を行い、建築設計図の基本を認識し、模擬問題を通して設計課題製図に対する実技の修得をする。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	2級建築士設計課題図面 計画手法		
3 ～ 4 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (エスキース)		
5 ～ 6 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (配置図兼1階平面図・2階平面図) の作成		
7 ～ 8 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (立面図・断面図) の作成		
9 ～ 10 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (矩計図) の作成		
11 ～ 12 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (床伏せ図・小屋伏せ図) の作成		
13 ～ 330 時間目	2級建築士設計課題図面 模擬試験		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	2級建築士試験設計製図テキスト	出版社：(株)総合資格 著 者：教材編集会議
	教 材	配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050106

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	総合演習 (設計)				
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別	選必	⑤ 時間数	50	⑥ 授業形態	実習
⑦ 担当教員(代表)	遠藤 忠俊	⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。				
⑩ 授業の目的・目標					
<p>前期における2級建築士受験時に培った知識を応用し設計競技に参加することで、プレゼンテーション能力を向上させるとともに応用力を高め、即戦力として活躍出来る人材育成を目標とする。設計競技の審査において、外部の評価を受けることにより、今後の問題点と、実務への意識向上を目指す。</p>					
⑪ 授業の概要					
<p>各種団体が実施する設計競技を選択し、実際に作品提出する。授業内で、設計競技の趣旨のとらえ方や、設計作業の進め方などをレクチャーし、プレゼンテーションのアドバイスも行う。</p>					
⑫ 授業内容・授業計画					
1	～	5 時間目	ガイダンス (設計競技選択)		
6	～	15 時間目	調査・資料収集・ディスカッション		
16	～	25 時間目	エスキス・スタディ模型		
26	～	40 時間目	作図・模型製作		
41	～	50 時間目	プレゼンボード作成・作品発送		
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
～	～	時間目			
⑬ その他	教科書	2級建築士試験設計製図テキスト	出版社：(株)総合資格 著 者：教材編集会議		
	教材	配布資料			
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	050211

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	総合演習 (CAD)			
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	25	⑥ 授業形態
⑦ 担当教員(代表)	小牧 友久	⑧ 実務経験	設計実務経験者	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑩ 授業の目的・目標				
CADソフトの中で最大のシェアを占めているAutoCADを使用し、これまで学習してきた第2のシェアを誇るJw-cadと同じぐらい操作できることを目標とする。				
⑪ 授業の概要				
基本操作からテンプレートデータの意味と作成方法を学習する。その後、平面図の描き方の一例を学習する。練習課題においては、AutoCADに慣れることを前提として、図面の作成を行う。				
⑫ 授業内容・授業計画				
1 ～ 2 時間目	AutoCAD 基本操作			
3 ～ 4 時間目	テンプレートデータの作成			
5 ～ 6 時間目	平面図の作図方法説明			
7 ～ 9 時間目	課題① 平面図 作図			
10 ～ 12 時間目	課題① 立面図・断面図 作図			
13 ～ 15 時間目	課題① 立体モデル 作成			
16 ～ 17 時間目	課題② 平面図 作図			
18 ～ 19 時間目	課題② 立面図・断面図 作図			
20 ～ 22 時間目	課題③ 立体モデル 作成			
23 ～ 25 時間目	試験			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑬ その他	教科書			出版社：
	教材			著 者：
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード
				050212

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	総合演習 (構造計算)		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	選必	⑤ 時間数	50
		⑥ 授業形態	実習
⑦ 担当教員(代表)	小牧 友久	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築構造計算の演習として1つの建築物をあげ、構造計算書を作成する。これまで学んできた建築構造計算の基礎的な知識を踏まえ、実例を通してより実務的で体系的な構造計算書作成能力を身に着ける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>各自が、対象建築物 (鉄筋コンクリート造 (ラーメン構造) 2階建て) を選定し、その意匠図から自ら構造設計者として構造計算書を作成する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	構造計算書を作成する建築物の決定 (意匠図の入手等)		
6 ～ 10 時間目	対象建築物の概要把握 (不足図面や不足情報の作成等)		
11 ～ 18 時間目	荷重計算 (固定荷重・積載荷重・積雪荷重・風圧力・地震力等)		
19 ～ 26 時間目	応力計算 (準備計算・固定モーメント法・水平力に対する略算法等)		
27 ～ 34 時間目	部材算定 (梁・柱・床スラブ・耐震壁・基礎等)		
35 ～ 45 時間目	計算書の内容確認と製本作業等		
46 ～ 50 時間目	発表会及び講評会		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	図説 建築構造設計	出版社：学芸出版社
			著 者：植村典人・藤田光男・大津秀夫
	教材	配布資料	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050213

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	総合演習（施工図）		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	選必	⑤ 時間数	50
		⑥ 授業形態	実習
⑦ 担当教員(代表)	伊丹 勤	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>工事現場では、設計図だけで施工することは不可能である。各工事に於ける施工図の必要性を説明し、又どのように使われて行くか、その大切さを理解させる。その中で特に現場管理者が中心となって作成したり、チェックしなければならない主な施工図の作成方法、手順を習得させ、簡単な施工図を書かせ基礎的な能力を養成する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>簡単な実務設計図面を使用して、鉄筋コンクリート造・鉄骨造等の躯体工事図面、および木工事・金属建具等の仕上げ工事図面を描かせたり、チェックさせ実務能力を養成する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 8 時間目	木工事関係の施工図		
9 ～ 17 時間目	鉄骨工事関係施工図		
18 ～ 26 時間目	鉄筋工事関係の施工図		
27 ～ 35 時間目	コンクリート躯体施工図		
36 ～ 43 時間目	金属製建具工事の施工図		
44 ～ 50 時間目	割り付け図		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築の施工図入門	出版社：東洋書店
			著 者：奥田幸司
	教 材	配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			050214

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	総合演習 (積算)		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	25
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑥ 授業形態	実習
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築積算士補受験のための学習を通して、建築全般にかかわる積算業務の概要と、コスト意識を学ぶことを目的とする。			
⑪ 授業の概要			
日本建築積算協会の「建築積算士補」認定講習を行う。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 1 時間目	建築積算とは		
2 ～ 2 時間目	建築生産プロセスの概要と建築積算		
3 ～ 3 時間目	入札とは		
4 ～ 4 時間目	積算業務の概要		
5 ～ 5 時間目	設計図書とは		
6 ～ 6 時間目	工事費の概要		
7 ～ 8 時間目	建築コストにおける数量と単価		
9 ～ 10 時間目	内訳書とは		
11 ～ 12 時間目	建築数量積算基準		
13 ～ 14 時間目	数量の計測計算 (土工)		
15 ～ 16 時間目	数量の計測計算 (躯体)		
17 ～ 18 時間目	数量の計測計算 (仕上)		
19 ～ 20 時間目	数量の計測計算 (インテリア)		
21 ～ 22 時間目	仮設工事・設備工事の積算		
23 ～ 24 時間目	建築積算の応用分野		
25 ～ 25 時間目	建築積算士補試験実施		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築積算・別冊	出版社：(社)日本建築積算協会 著 者：(社)日本建築積算協会
	教 材		
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050215

授業計画（シラバス）

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	総合演習（各種申請）		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	50
⑦ 担当教員(代表)	遠藤 忠俊	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築関係法規を習得した学生を対象としたものであり、各種申請の授業のなかで、幅広い実務的な建築関係法規を習得させることを目的とする。各種の申請業務を通して、実際の建築基準法の規制、基準法以外の規制を調べる。この各種申請の授業では、申請書添付用の『住宅の設計』作業をとおして、建築関係法規を実務面から学ぶ。工事着工日を想定した申請工定表に基づいて確認申請書、計画概要書、建築工事届、完了検査申請書を完成させる。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>実務的な建築法規の学習として、各自が設計事務所の管理建築士となり、厳格な設計条件に適合した一戸建て住宅図面を作成し、その図面を基に、確認申請書、計画概要書、建築工事届、完了検査申請書の各種申請書を作成をする。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 8 時間目	関係法令説明(法第6条、第6条の2、法第7条、法第7条の3、法第15条等)		
9 ～ 23 時間目	規定課題による設計(壁量計算・壁率比の計算含む)		
24 ～ 34 時間目	確認申請図面の作成		
35 ～ 43 時間目	確認申請書・計画概要書の作成		
44 ～ 50 時間目	建築工事届・完了検査申請書の作成		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050216

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	総合演習 (測量実験)		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	選必	⑤ 時間数	50
		⑥ 授業形態	実習
⑦ 担当教員(代表)	伊丹 勤	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築工事が完成するまでには様々な細かい工程があるが、現場管理者としてその段取りをする場合に、どのように測量機器を使用するかを学ばせる。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>建築工事の竣工までに必要な施工管理上の重点項目を提示し、測量実習地・学校本館・2号館・3号館の建物を使用して、実務上で必要な段取りがスムーズに出来るような測量機器の扱い方を学ばせる。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 4 時間目	測量機器の取り扱い (復習)		
5 ～ 8 時間目	宅地造成工事を想定して、敷地の面積と高低を実測し、盛土切土量を求める。		
9 ～ 10 時間目	盛土切土量計算の確認		
11 ～ 18 時間目	設計図を基に遣り方を作り、掘削ラインの位置出をする。		
19 ～ 26 時間目	水糸・水杭等を使用して、地業工事における既成杭の芯の位置出しをする。		
27 ～ 34 時間目	RC工事の壁心・柱心等の垂直墨出し、SLよりの基準レベルの墨出しのを行う。		
35 ～ 42 時間目	RC建築物の躯体施工図を使用して、逃げ墨から墨出しをする。		
43 ～ 50 時間目	内部の仕上げ墨を出す (床・壁、階段、天井等)。		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社 :	
	教材	著 者 :	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			050217

授業計画（シラバス）

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	1級建築士・製図		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	50
⑦ 担当教員(代表)	河崎 真樹子	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
1級建築士設計製図課題に対する、法的な対応、構造的な知識を元に、種々の用途の建築物に対する計画手法を学ぶ。また、作図精度や作図スピードなどの作図技術を向上させ、実技試験に合格できるスキルを身につけることを目指す。			
⑪ 授業の概要			
実習形式で、計画から作図までの演習を行い、建築設計図の基本を認識し、模擬問題を通して、設計課題に対する計画能力と作図能力が修得できるようにする。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	集合住宅および宿泊施設の法的な規制とエスキスの進め方		
6 ～ 10 時間目	「高齢者施設を併設した集合住宅」のエスキスと作図		
11 ～ 15 時間目	「市街地に建つ診療所等のある集合住宅」のエスキスと作図		
16 ～ 20 時間目	コミュニティセンターや商業施設などの公共施設の法的な規制とエスキスの進め方		
21 ～ 25 時間目	「世代間の交流ができるコミュニティセンター」のエスキスと作図		
26 ～ 30 時間目	「屋内プールのあるコミュニティ施設」のエスキスと作図		
31 ～ 35 時間目	美術館や図書館などの公共施設の法的な規制とエスキスの進め方		
36 ～ 40 時間目	「地方都市に建つ美術館」のエスキスと作図		
41 ～ 45 時間目	「アトリウムと小ホールをもつ地域図書館」のエスキスと作図		
46 ～ 50 時間目	模擬試験（「多目的ホールのある事務所」を試験形式で行う）		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050218